平成２７年１１月
第５７号
荒川区立南千住第二中学校
(題字;校長 齊藤 進)

ナンちゃん・ニーくん

槇の屋のおぢ
～ ヘビ妖怪の伝承について ～

校長　齊藤　進

霜月祭の２年生の学年劇で大蛇がアリーナを席巻した迫力はいまだに目に焼き付いています。学校だより１０月号の南千住の妖怪伝説では女中「お牧」の情念がヘビに乗り移る話が紹介されました。ここで、諸説ある妖怪大蛇の伝承についてふるさと文化館**野尻かおる**館長の見解を紹介します。

「槇の屋のおぢ」表記は『新修荒川区史』上に掲載されているもので、私が初めてこのことに触れた『尾久の民俗』で引用して紹介しました。

「マキノヤ」は小さな地名として使われていたようで、正式表記というものは無いと思います。その意味で音の「マキノヤ」の平仮名若しくは片仮名表記が無難なのかもしれませんし、典拠を明確にすることも良いと思います。私は、「マキノヤ」は、町屋八丁目(対岸足立区千住桜木)の大きく蛇行した荒川及び両岸の葦原の呼称では無いかと思っています。伝説にいう、「おぢ」即ち大蛇は、荒ぶる川、子どもが近づいてはいけない、船頭が注意して棹を刺さなければならない事の警鐘ではなかったかと思います。『町屋の民俗』編纂時には、南千住の幕末の随筆家加藤雀庵の「ちりづか」に記載があるのに気付き掲載しました。また、町屋の一本松にも大蛇がいて「まきのや」と呼ばれたという伝説を地元の方から確認したため掲載しました。以下がその内容です。

「今千寿のあたりの土俗茅原などのことをすべてヤとよべり、按に此やは野の音なるべし。同所荒川の辺土人マキノヤと呼べる地あるハ、昔の牧の跡などいへる義か、また水の渦巻おちふ義にて巻のヤ歟、又ハ蒔置地にて蒔のやか、そはいづれにせよ、やハ野なること上にいへるがごとし」とあります。なまりかどうかですが、千葉県佐倉市に大蛇村（おおじゃむら）（『日本歴史地名大系　千葉県』平凡社を検索）というのがあります。どちらがとか、何が正しいかでは無く、地域でどうのように伝えて来たかを掬い取り、伝承することが大切だと考えています。

１０月２６日に行われた大蛇の担ぎ出し(点睛)では、教育委員会**高梨教育長、阿部教育部長、原田指導主事**をはじめ**瑞光町会、本校ＰＴＡの皆様**には多大なご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申しあげます。

第２７回
霜月祭(舞台発表)

朗読部「桜の木の下で」

１０月３１日(土)、南千住二中の文化祭である第２７回霜月祭舞台発表の部が行われました。舞台発表は年々その内容も濃くなり、今年もたくさんの発表が目白押しでした。

生徒会本部が企画する開会式では、霜月祭実行委員展示担当によって大きなボードに掲げられた「受け継げ心、叫べ魂 ～Link･Ring･Song～」というスローガンが紹介されました。また、前生徒会長、実行委員会舞台担当代表の(３年３組女子)から「素晴らしい霜月祭にしましょう」と呼びかけられました。

1年劇

開会式後はまず、朗読部の発表がありました。スクリーンに映し出された美しい映像と共に、部員原作のオリジナル作品**「桜の木の下で」**が上演されました。つづいては**ＪＲＣ活動・レスキュー部**の活動報告がありました。夏休みに行われた三首都交流会やトレセン(ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ)の参加者の報告などがありました。次は**１年生の地域学習劇**でした。南千住地域の史跡や文化財を紹介する、１年生の初々しくかわいい演技に会場が沸きました。つづいては**国語意見発表。**各学年の代表が大変説得力のある内容の熱弁が繰り広げられました。

2年劇

国語　意見発表

休憩を挟んで、**２年生地域学習劇**の発表でした。南千住に伝わる妖怪伝説がユーモアを交えて紹介されました。クライマックスでは、**牧の野の大蛇**の御輿が大迫力で登場し、会場を驚かせました。つづいては**英語スピーチ**の発表です。各学年の代表４名(１年生２名、２・３年生各１名)が、みごとなスピーチを披露しました。４人は１１月６日(金)に行われた、荒川区中学校連合英語発表会にも参加しました。スピーチの後は**荒川区中学生被災地派遣団**の南千住二中代表２人による派遣団報告が行われました。まだまだ復興途中の現地の写真を交えた考えさせられる発表でした。そして午前の部最後を飾ったのが**３年生地域学**

英語　スピーチ

3年劇

校長先生も舞台に　盛り上がった３年劇フィナーレ

習劇「南千住４００年物語」でした。江戸初期から昭和までの南千住の歴史を学ぶハイレベルな内容でした。豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、さらには美空ひばりも登場する劇に南千住という地域のすごさを実感しました。

舞台発表で活躍したのはステージに立った人ばかりではありません。実行委員や各学年の担当を中心とした照明や音響、衣装、舞台装置などの裏方もインカムをつけてテキパキと仕事をこなしていました。まさに生徒みんなで作り上げた舞台発表でした。

インカムを装着本格的な照明係

霜月祭(合唱コンクール･吹奏楽部演奏)

舞台発表の午後は、合唱コンクールが行われました。各クラス最優秀を目指し、早朝練習、放課後の練習と、熱心に取り組んできました。１年生の課題曲は**「夢の世界を」**、２年生**「時の旅人」**、３年生は**「春に」**でした。トップバッターは１年３組、そして１組、４組、２組とつづきました。１年生としては上々のできばえでした。１年生につづき、２年２組、３組、１組。各クラスの個性が伺える立派な合唱でした。そして３年２組、３組、１組とつづきました。学年が上がるに連れ、美しいハーモニーと迫力が増し、会場を釘付けにしました。最優秀を手にしたクラスは、**１年生４組、２年生２組、３年生１組。**閉会式で実行委員会合唱担当代表の３年２組女子から結果が発表されたときは、歓声と悲鳴が会場を包みましたが、最優秀を取れなかったクラスも審査結果は僅差で、甲乙つけがたいものでした。クラス一丸となって取り組んだ成果は、どんな賞より素晴らしいものだったに違いありません。

指揮者の手には「笑顔」の２文字

南千住二中霜月祭フィナーレを飾るのは**吹奏楽部**の演奏です。東京都のコンクール金賞の実力は圧巻でした。そのコンクールで演奏した「梁塵秘抄～熊野古道の幻想～」という厳かな曲から始まり、ドラえもん映画の主題歌**「３６０°」、「テレビＣＭメドレー」**、GReeeeN の**「イカロス」**などの楽しくノリノリな曲も披露してくれました。アンコールの拍手が鳴り止まない中、関ジャニ∞の**「がむしゃら行進曲」**で締めくくってくれました。

最後を飾る吹奏楽部演奏

閉会式では生徒会本部・放送委員会による**「霜月祭メイキングムービー」**が放映されました。

つづいて新生徒会長、実行委員長の満足感あふれる言葉で霜月祭舞台発表は大成功のもと、幕を下ろしました。

霜月祭(展示発表)

３年「観光スター」と２年「輝く自分」

南千住二中霜月祭のもう一つの大きな見所は展示発表です。２階ホールには、**国語の書写作品**(１年)、**社会科の調べ学習**(１年･２年)、**清里個人新聞**(１年)、下田移動教室の体験学習でつくった**てびねりの器**(２年)、**フラワーアレンジメント部の**作品、**家庭科**の作品など、さらに**修学旅行の新聞**やきれいな表紙の**オリジナルしおり**、中でも体験学習でつくった華やかな**漆器の加飾の作品**(いずれも３年)が目を引きました。また、ＰＴＡ成人教育委員会が開いた造形教室の作品、**せっけんデコパージュ**も花を添えていました。

せっけんデコパージュ

絵文字(２年美術)

１階ホールに目を移すと、各学年の**美術作品**が目に飛び込んできます。３年生の**観光ポスター**、２年生の**輝く自分**(粘土作品)や**絵文字**、１年生の**レタリング**、さらに技術科の**木工作品**などなど、教科の作品から各学年の作品まで、所狭しと展示され、大変見応えのあるものばかりでした。

牧の野の大蛇担ぎ出し

１０月２６日(月)、牧の野の大蛇の御輿の完成を迎え､千住大橋まで担ぎ出しての**目入れ式(点睛)**を行いました。牧の野の大蛇は、片目の大緋鯉、千住大橋の大亀とともに隅田川に伝わる伝説の１つです(前号「南千住マイスターのコーナー」で紹介)。この日は大蛇作りを中心で取り組んだプロジェクトメンバー約５０名と２年生の担ぎ手のメンバーで学校を出発。プロジェクトを指導してくださった妖怪造形家の先生、ＮＰＯ法人千住すみだ川代表の方、ＰＴＡ役員の保護者の方や南千住警察署の警察官の方々にもご協力をいただき、日光街道を渡り、千住大橋詰めの材木店まで担ぎ出しました。沿道の方も驚きながらも応援してくださいました。　隅田川の水をくみ上げ、墨を解いて目を入れ、大蛇に心が宿りました。

玄関ホールに仲良く並ぶ３つの御輿

まさに点睛です。帰り道も元気に沿道を練り歩き、無事学校に到着し、先輩(？)の大緋鯉、大亀と一緒に玄関ホールに仲良く並んでします。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

後期生徒総会

口の字型に全校生徒が集う

１１月９日(月)の午後に、後期生徒総会が行われました。この生徒総会は、先月改選された南千住二中第２７期生徒会本部が手がける最初の大きな行事です。給食、昼清掃終了後に全校生徒が各自椅子をもってアリーナに集合、各学年と生徒会本部・議長団・質問者が口の字型に向かい合い総会は始まりました。

会の冒頭では、新生徒会長が「生徒会活動をより活発にし、よりよい南千住二中をつくりましょう」とあいさつしました。この日、議長を務めたのは中央委員会で承認された２年１組男子。他に議長団として３年２組男子２名、２年２組女子、２年３組男子、１年３組男子、１年４組女子の６人が務めました。

２年生を中心として議事が進められるこの生徒総会は、生徒会活動の中心が３年生から２年生、１年生に受け継がれる大切な意味も持っています。まず、本部役員１年１組男子、１年３組女子、１年２組女子から生徒会全体の活動方針、スローガン、後期活動計画などが提案されました。つづいて各委員会の活動目標・方針などが提案され、各クラスの討議を経て出された質問・修正意見・賛成意見などが活発に出され、専門委員長がそれに対する答弁をしていきました。

活発な意見交換

活発な意見交換を経たのち、議長の呼びかけに応じた賛成者多数の起立で、生徒会本部、さらに全ての委員会の活動方針が可決されました。

総会の終わりには、「今日の討議をもとに、今後の生徒会活動、学校生活をよりよくしていきましょう」と、生徒会本部役員２年３組男子からの話があり、全校生徒が決意を新たにしました。

豪雨被災地に募金

記憶に新しい北関東での豪雨被害。この報道に南千住二中生徒会、ＪＲＣ委員会が立ち上がりました。被災地に少しでも支援金をと、９月２９日(火)から１０月２日(金)までの１週間を中心に募金活動をしてきました。朝礼や学活でもその主旨を訴え、各家庭に協力を呼びかけました。これも生徒会活動の一環です。

ＪＲＣ委員は期間中、募金箱をもって毎日玄関に立ちました。各家庭や先生方、地域の方など多数の協力を得て集まった募金は３３,０８７円にのぼりました。集められた募金は、１１月１０日(火)放課後、ＪＲＣ委員長をはじめ２年生のＪＲＣ委員６名が郵便局に出向き、日本赤十字社を通じて被災地に寄付されました。

郵便局に出向いたＪＲＣ委員６人

ご協力をいただいた皆さま、ありがとうございました。

南千住なかよし祭

来場者を待つボランティア参加者

１０月１８日(日)、毎年恒例の「**南千住なかよしまつり**」が荒川スポーツセンター野球場を会場として行われました。このなかよしまつりには、今年も南千住二中のレスキュー部員がボランティアとして参加しました。この日参加したレスキュー部員は、２年生６名、１年生１２名の計１８名でした。

部員たちは会場の準備･片付け、来場者の案内、駐輪場の整理、輪投げやフリスビー、アラ坊やウォーリーを探せなどの企画のお手伝いを行いました。まさに、南千住二中のボランティアがいなければ成り立たないほどの活躍ぶりでした。来場した小さい子どもたちも大喜び。楽しくやりがいのある１日でした。会を企画運営する地区委員会の方々にも大変お褒めの言葉をいただきました。

輪投げ、アラ坊、ｳｫｰﾘｰを探せなど企画のお手伝い

〔**南千住なかよしまつりボランティア参加者**〕

２年２組女子２名、２年３組女子４名
１年１組男子１名、女子３名、１年２組男子１名、女子２名
１年３組女子２名、１年４組女子２名

南千住七丁目保育園の園児の皆さんからかわいいすてきなプレゼントをいただきました

１１月１２日(木)、南千住七丁目保育園の園児数名と保育士さん南千住二中を訪れました。七丁目保育園は１１月７日(土)に南千住二中の校庭を使用し、運動会を行いました。そのお礼にと、園児の皆さんの手作りのプレゼントをもってきてくれました。

前日の運動会準備の際には、下校途中の３年２組の男子２人、３年３組男子１人の３人がわざわざ校庭に戻り、「大変でしょう」とテントの片付けなどを自主的に手伝ってくれたと、保育士さんが何度もお礼を言っていました。南千住二中のＪＲＣ精神や地域とのつながりがこういった行動に表われたものだと思います。園児の皆さんのかわいいプレゼントに思わず笑みがこぼれる、すてきな出来事でした。

2年生

性教育講演会

講師の先生の話を真剣に聞く

１１月１２日(木)午後、２年生を対象に性教育講演会が行われました。性に対する正しい知識を正しく理解し行動することは、大人の世界に足を踏み入れるために欠かせないことです。

この日は、帝京科学大学看護学科の産婦人科医である **斉藤 益子**先生と、同じく産婦人科医の **木村 好秀**先生にご来校いただき、まず全体会で、命の誕生から伝承、そして性感染症などについてお話しいただきました。全体会の後は男女に分かれてのグループワークを行いました。グループワークでは、思春期の心身の発達や性差など、約１時間にわたって学習しました。性に関する内容は、難しかったり、ちょっと照れくさい内容だったりもしましたが、２年生は真剣にお話を聞いたり、思い切って質問をしながら正しい知識を身につけていきました。

この性教育講演会は、異性への理解や尊重、自己の人生設計などを考える貴重な時間となりました。

1年生

校外学習(地域めぐり)

タブレットをかざすと説明が
表示される「ＡＲまちあるき」

熱心にメモを取り学習

１１月１３日(金)午後は、１年生の地域めぐりが行われました。地域めぐりは、地域学習の一環として行われているもので、南千住地域の史跡や文化財について、実際に現地に訪れ、学習するものです。

１年生の地域めぐりは７月にも予定されていましたが、雨のため実際に地域に出かけることはできず、校内で３年生から説明を受ける形で実施されました。そのため、この日に改めて地域に出て学習する機会をつくりました。また、７月の学習を一歩進め、素盞雄神社や回向院、赤レンガ塀(千住製絨所跡)など、班ごとに史跡や文化財の１つを担当し、調べ学習を進め、壁新聞形式でまとめることにしました。この日は雨が降ることもなく、班ごとに計画したコースを自分たちの力で元気にまわり、荒川区が開発した「ＡＲまちあるき」のコンテンツを利用したタブレットを使っての学習も進めました。

この学習で１年生は、また一歩**「地域の歴史を語る南千住二中生」**に近づくことができたようです。

部活動等の活躍

区英語発表会に参加した４人

《陸上競技部》 東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会
男子走高跳 **第６位** ２年２組男子
荒川区民体育大会秋季大会
中学女子 100m **第１位**、中学女子走幅跳 **第２位** １年４組女子

《バレーボール部》 第５ブロック(荒川･足立･台東･中央)中学校新人大会 **ベスト８**

《英語科》 荒川区中学校連合英語発表会(スピーチ) **第３位** ３年１組女子
北豊島高等学校英語スピーチコンテスト **準優勝** ３年１組女子

《国語科》 荒川区文化祭「俳句展示会」中学生の部
優 秀 １年４組女子『 蛍とぶ 淡い光が 点滅し 』
秀 逸 ２年１組女子、１年２組男子
佳 作 １年３組女子、１年１組女子、２年１組女子

《美術科》 荒川区明るい選挙ポスターコンクール
入 選 ２年３組男子、２年３組女子
佳 作 ２年１組女子

《教職員》 あらかわＭＢＡ表彰(荒川区中学校防災部被災地訪問に対して)
校長先生、生活指導主任の先生

南千住マイスターのコーナー

南千住の交通と産業 その6
『都電荒川線』

「あらかわ」といえば「都電」、「都電」といえば「あらかわ」といっても過言ではありません。東京で唯一残っている「都電荒川線」はあまりにも有名です。その始発着駅「三ノ輪橋停留所」が南千住の地にあります。

都電のルーツは明治36年8月に東京馬車鉄道が動力を馬から電気に改め東京電車鉄道を開業したことに始まります。それを機に東京市街鉄道、東京電気鉄道が相次いで開業します。その後この三社が合併し、東京鉄道となりました。都電の正式名称は「東京都電車」。明治44年、東京市が東京鉄道を買収し、東京市電となったのが始まりです。

同じ年、王子電気軌道が飛鳥山上～大塚間に開業しました。現在の都電荒川線の前身になる区間です。その後もいくつかの電車会社の開業や合併などを繰り返し、昭和17年には、東京市が王子電気鉄道も買収し、現在の早稲田～王子～三ノ輪橋の都電荒川線になります。

都電は昭和35年頃最盛期を迎え、41路線にもなあり、都心部から品川、新宿、池袋、さらに周辺部まで、都内全域を網羅するほどでした。南千住の地域にも、現在の荒川線の他に、浅草～南千住～千住四丁目(北千住)を結ぶ路線なども通り、千住大橋の上も都電が走っていました。

しかし、時は自動車の時代へと移り変わっていきます。交通量が多くなると都電は渋滞の原因になり、徐々に地下鉄やバスへと移行していきます。さらに、財政再建のために、東京都は昭和42、第一次から第七次にかけての「都電撤去」を決定し、全路線を廃止することにしました。しかし、沿線住民、都民の強い要望もあり、ぎりぎりのところで荒川線だけが残されることになりました。荒川線は専用軌道が多かったことや代替のバス路線がなかったことが存続につながった要因とされています。

こうして唯一残った「都電荒川線」が、私たちの足として、「チンチン」という出発音と共に下町の心を運んでいます。

千住大橋を
渡る都電